
FinalFantasy? SIX WING

如月暦

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

F i n a l F a n t a s y ? S I X W I N G

【Nコード】

N 2 8 2 0 Y

【作者名】

如月暦

【あらすじ】

つい…ついやってしまった…！この小説は、ついつい作者調子に乗って書いてしまったものです。不定期更新遅めなこの小説を読んださるとありがたいです。

Prologue (前書き)

会話劇だよ。ほんと…

なんでかいちゃったんだろ…とりあえずどっぞ…

Prologue

俺は死んだ…女の子を助けようとして。

トラックに轢かれてしまったのだ。

なのに…なんで…なんで…

「生きてんのおおおお！？」

『うわあ！…何よ…びっくりさせないでよ』

「あんた何者だ？」

『…私？私の名前は、エアリス・ゲインズブル』

「…は？…えーと…すまん。もう一回言ってくれ」

『もう。聞いてなかったの？私の名前は、エアリス。エアリス・ゲインズブルよ！』

「エアリス？…あのエアリスー！？え！？セフィロスに後ろからグッサリやられたあの感動的なシーンを演じたあのエアリス！？」

『あゝ…あれね…いやあまさかあそこでセフィロスが来るとは思わなかったわ…って何でそのことを——！？…そういえばあなたのいた世界は、あれは「げーむ」っていうものなのよね…』

「ゲームの言い方が無駄にかわいい…」

「そういえば、ここってどこなの？」

と、俺はずっと気になっていたことをつげる。

『え？ここ？…ここは生命の源、ライフストリームの中。だから、勘違いしてるみたいだけれど、あなたはきちんと死んでるのよ』

「…さいですか…ん？ちょっと待ってくれ。何で俺がライフストリームの中にいるんだ？」

『そう…そこが問題なのよ…もともとあなたの世界には、ライフストリームは無かったはずなのよ…それが何で…』

『儂がやった』

『——！？だれっ！？』

そこには金色の衣に身を包む女性がいた。

『儂の名前は、アステカ神話の中に出てくる、創造神・オメテオトルだ』

「オメテオトル…だつて——！？」

『？』

と、首を傾げるエアリス。

畜生！動作の一つ一つがかわいいんだよおおおお！

…失礼。自我を失ってしまった。

オメテオトル。

この人（？）のことを知る人は少ないだろうから、ここで解説しよう。

その名は「二面性の神」を意味し、対立した二つを兼ね備えた完全なる存在として神の中の神「万物の神」として、今でも崇められている。

『ほう。よく知っているではないか』

「いえ…これでも前世？では小説書いていて、よく資料として使っていたものですから…」って何勝手に思考読んでんですかつ！」

『ん？ああ。すまんつい癖と趣味で』

「どんな癖ですか…？そして嫌な趣味ですね…」

『あのう…』

『む。なんだ』

『どうして彼をこのライフストリームに…？』

『それはのう…あやつに原作…つまりは、エアリス。そなたのいた世界の行く末を変えるためだ』

『行く末を…？』

『そう。あの結末には儂も納得いかくてな…だから…。だからこそ、ファイナルファンタジー7を最も愛する彼をここに呼び寄せた』

「ふうん。じゃあこれから俺は転生するわけか…」

『そういうことになるな』

「おーけー。そんなわり能力くれ能力」

『む。怒ってないのか？』

「え？何で怒る必要があるんだ？」

『？』

「だって…美女二人の目の前でキレるとかありえないし…俺はこの世界に懂れて育ってきたんだ。元の世界で死んだ？そんなの関係ねえよ」にこつ

そういつて、俺は微笑んだ。

『（ぼんっ）』

「！？ど、どうしたのっ？」

突然二人の顔が赤くなる。

『な、なんでもないよっ！』

『（あの人つてもしかしてあれなんですか？）』

『（うん…たぶんあれだと思う）』

『（天然ジゴロ）』

「…大丈夫ですか？」

『ふえっ！？だ、大丈夫だよっ』

『そ、そうそう大丈夫大丈夫！』

「ならいいけど…で、能力の事なんですが…」

『あ、ああそうだったね…よし。4つまで叶えるよ』

「ううん…どうしようか…」

まあまずは魔力だよな…。あとは…マテリアだな。あと…うん。よし決まった。

『決まったようだな』

「はい。まずは魔力Max。あと、回復、雷、重力、のマテリアマスタ―。あと…シャドウフレア、アルテマ、シールドのマテリア」

『む。たしかそれは敵の技じゃなかったか？』

「いえ。他のはいらなかったのっ」

『そうか…と、なると、オリジナルの初期状態になるがいいかい？』

「はい。充分です」

『他には？あとひとつあるぞ？』

「うーん…あ！使い魔をください！」

『使い魔？』

「ええ。ひとりじゃさみしいので…」

『どんなのがほしいのだ？』

「バハムード零式のミニバージョンみたいな感じで、いざとなった
ら、召喚獣になるっていう…」

『了解した。ちなみに、人物に関しての情報は消させてもらっよ』

「オーケー」

『よしそれでは…行つてらっしゃーい！』

「へっ？」

急に足元から眩い光が出てくる。

『See you next time 暁右翼』

ああ確か俺の名前…そんなだったな…。

Prologue (後書き)

いかがでしたでしょうか？うまくいかなかったら、打ち切りたいと思います。

ご意見感想お待ちしております。

はあ…

Episode One (前書き)

はじめ

Episode One

ニブルヘイム。

重要人物たちが住んでいた場所であり、とある事件が起こる場所である。

そんなところに俺は生まれた。

俺が生まれた頃から魔晄炉が存在し「おい！つーくんご飯だよお！——話を遮らないでくれ姉よ。

紹介しよう俺の姉、ティファ・ロックハートだ。

そしてその弟すなわち俺。アカツキ・ロックハート。

「主。ご飯だそうだぞ」

そしてこいつ、レイ。

そう、俺の使い魔である。

なぜ知っているのか？答えは簡単だ。

ちやあんと前世のことを覚えていたから。

まあ正確には、ライフストリームの中だが。

「ん。そうだな行こうか」

そう言つて俺は二階へと赴く。

「おまたせえ」

「またせたのう姉御」

「…その姉御っていうのやめてって言ってるじゃない。レイ」

「む。スマン。つい癖で」

だいぶ姉さんもレイに慣れてきたようだ。

最初はギャーギャー言ってたのに。

「で、何でおめかししてんの姉ちゃん」

「え？うふふそれはね…「ああそういえば神羅の人たちが調査に来るって言ってた気がする」…知ってるじゃない」

そのとき、外から——。

『おい神羅の方達が来たぞお』

「あ、はい！今行きます！じゃ、ご飯ここに置いてくから食べ
てて」

「はい」

そう言い残し、姉ちゃんは外に出た。

食事後

「さーで、レイ。見に行こうぜ」

口を漱いだ後、レイにそういう。

「む。なにをだ？」

「決まってるだろ？神羅さん方んとこさ」

そっうい俺はレイと共に外へ出る。

「皆は？」

「ああ。あの人達ならニブル山のほうに行っただよ」

「ありがとう。おじさん」 たっ

「あつ！待ちなさいっ！そっちにいつてはっ！」

そっおじさんは言ったと思うが振り返らずニブル山のほうに行く。

「迷ったああああ！！！」

Episode One (後書き)

~~~~~

## Episode Two (前書き)

どうもーこんにちわ！如月です。

それでは第二話よろしくお願いいたしますーす！！

## Episodetwo

「迷ったああああ！！！」

あれから5時間後。俺は見事に迷った。

「主」

# ん?

その時だつた。

【グルウウウウウウオオオオオオオオオオオオ  
オオオ!!!!!!!!!!!!!!  
!!!!!!!!!!!!!!】

まさかのドラゴン。少々緑がかったいるからして、ただのドラゴンだろう。

「んな……！まてよおい！俺得物持ってねえんだぞ！」

「うっむ… 儂も覚醒状態になれんわい」

「っ！くるぞおお！！」

【グルウウアアアアアアアアアア！！！！！！！】

# 《火炎放射》

「ぎゃああああ！ちよつ！序盤で火炎放射とかマジチート！」

「主っ！？マテリアは持っていないのか！？」

「くっくくく！もってねええええええ！」

まずいます！

考える考える考える！

「逃げるしかねえええ！」

「ちょ！？主いい！？？」

「じゃあどうするんだよ!？」

それと同時に俺は走り出す。

「レイも早くしろおお！」

「くっ……！初戦闘なのに……！初戦闘なのに……！初戦闘なのに……！初戦闘なのに……！初戦闘なのに……！」

「仕方ねえだろおおお！」

だってだってだって！ドラゴン見てえなボス級モンスターにかてつかよ！

ドラゴンだぜ！？ドラゴン！

武器もってねえから戦闘とかできねえし！

3分後

「ぜえ…はあ！ぜえ…はあ！」

「…体力なさすぎじゃあないか？主よ！」

「うるへえー！長距離は苦手なんだよ！」

そうに決まってる！それでも、もったほうなんだぜ！？

前世では全力ダツシュ50秒で死んだからな！

大体お前は空飛んでんじゃん！」

「もう…無理…！」

「主イイイイイ！？」

【グルウウオオオオオ！】

「…いやあああああ！」

「はあ！」

ギイイイイン！

…？あれ？死んでない？

「大丈夫か？お前たち」

「あ…あんたは…？」

そこには、きらきらと輝く、金色の髪を持った青年がいた。

そいつに分かりきったことを聞く。

「俺はクラウド。クラウド・ストライフだ」

FF7《ファイナルファンタジーセブン》の主人公がそこにいた。

妙にかつこよかったのは幻じゃあないと信じたい。

## Episode Two (後書き)

いかがでしたしょ - か？

ご感想など随時募集しておりますゆえよろしくです。

最後に、コメントを書いてくださった蒼天さん。コメントをもらっただけで、励みになりました。つたない小説ですが、今後ともよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2820y/>

---

FinalFantasy? SIX WING

2011年12月19日23時50分発行